



5月10日(金)

育友会授業参観の様子



時間の制約がなかったため、多くの方に御参観いただきました。ありがとうございました。



5/23(木)春季球技大会(アルティメット)開催!



アルティメットとは、一枚のディスクをパスしながら運び、エンドゾーンを目指す競技です

地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキプロジェクト」



YCK PROJECT REPORT

第2号

地域をフィールドに多様な人とのつながりが価値ある学びをつくる

YCKプロジェクト 課外活動プログラム 「①葉っぱをたべたのは誰だろう？」を実施しました!

課外活動プログラムとは

自分の興味・関心・予定に合わせて参加できる、吉城高校オリジナルの発展型インターンシップです。今年度もバラエティーに富んだ魅力あふれる12のメニューを実施します。当日に参加するだけではなく、事前学習や振り返りによって、体験を通じた学びを充実させています。

「葉っぱをたべたのは誰だろう？」

- ◆日 時: 令和6年5月18日(土)
- ◆場 所: 吉城高校→古川町高野(岡田さんの森)
- ◆参加者: 1年生(8名)、2年生(14名)、3年生(5名)
- ◆講 師: 京都大学大学院地球環境学堂 浅野 悟史准教授 他



京都大学は地域協働活動を実践しており、飛騨市をフィールドに様々な研究を行っています。このプログラムはその活動の一つとして大学生や研究者と交流しながら飛騨の里山にいる生き物についての調査を行い、飛騨の生態系について考える企画です。まず、古川町内の森で葉っぱをサンプリングし、昆虫がその葉を食べた痕跡からDNAを検出します。そこから生態系を調査し、昆虫リストを作成します。フィールドワークを行うだけでなく、そのフィールドワークで得られた結果の検証や、そのフィールドワークに参加して自分にどのような変化が起きたのかを振り返るプログラムも行います。このプログラムに参加した生徒は「生物や飛騨地域の生態系に興味があるから」、「学校の生物の授業で生態系や食物連鎖について学び、興味をもち、もっと知りたいと思ったから」、「虫が好きだから」、「大学での研究に触れてみたい」という動機で参加を決めたようです。

今回は全3回のプログラムの第1回目で午前は里山と生物多様性、身近な昆虫と環境学についての講義を受講し、午後は一般の参加者の方と共に古川町高野にある岡田さんの森にて環境DNAを採取するため6種類の葉っぱの採集を行いました。岡田さんの森はしっかりと手入れがされており、歩いてみると光が入る明るい里山で、様々な植物や昆虫、動物が共存していました。葉っぱの虫食いの後をまじまじと見たり、葉っぱや枝の香りを嗅いだり、幼虫が葉を住処にしている様子なども観察することができました。



生徒のワークシートから、感想・ふりかえりの一部を抜粋しました。

飛騨の豊かな自然と大学の研究に触れた!

2年生	2年生	3年生
<p>・普段の生活の中では体験できないことや、専門家の方々による生物や農業の話の聞くことができとても楽しかったです。葉っぱの採取も何度も行うことができました。次の活動でも積極的に参加して新しい知識を自分から得られるようにしたいと思います。</p>	<p>・京都大学の先生や大学院生の方々、そして地域の方々など多くの人と交流することで、自分の着目している視点と異なる考え方や実験へのとらえ方を発見できました。第2回、3回の活動があるのでとても楽しみです。次回はもっと質問をしたいと思います。</p>	<p>・午前の講義も面白かったけど、午後からのフィールドワークがとても楽しかったです。山を歩き、実際に見て、多くの知識を得るとともに初めて知ることも多く、写真で見るより実物を見ることでわかることが多くありました。私はオオキツネタケというキノコを見つけることができました。山には他にも多くのキノコや菌がありました。</p>

ご意見・ご感想などは、吉城高校・キャリア推進部までお問い合わせください。

☎ 0577-73-4555

